

障がい者の社会への“完全参加と平等”を！

ときめき Fukuoka

2024.1
No. 273



アートを楽しむ、カフェで親しむ

- 05 福障協だより「令和5年度運営委員会」
- 07 身障協だより「共生社会実現へ新たな一歩を」
- 08 各団体長新春ご挨拶
- 11 1月・2月の企画展示情報～福岡市介護実習普及センターより～



アートを楽しむ、 カフェで親しむ

有限会社 珈琲豆屋

代表取締役 高木絵梨氏 従業員30名

同社は、昭和62年創業（会社設立平成4年）

創業当時は、店舗は構えず一般家庭向けとして珈琲豆の宅配事業を展開。

昭和63年珈琲豆屋をオープン。平成4年自社焙煎をスタートし、10年の年月を経、満を持して平成14年に「Nanの木」をオープン。以後、店舗や事業を拡大展開し、現在に至る。

終始柔和に語られた気さくな人柄で、お店の運営はお嬢様に譲られたと語るのには、有限会社珈琲豆屋創業者の取締役 芹口健二氏である。「豆を焙煎する人で、コーヒーの味は変わる。センス、感性、集中力が必要です。焙煎の技術は、誰かがきちんと受け継いでくれないと、お店は一週間でつぶれてしまいます。」と穏やかな口調の中に、経営者としての厳しい現実を口にします。

そんな芹口氏をお迎えし、今回は東区のお店「珈琲豆屋 Nanの木」が取り組んでいる壁面ギャラリーと障がい者の芸術活動について、東障がい者フレンズホーム所長 大本知恵氏のお二人による対談を試みました。

大本 お店の佇まいが良いですね。このガーデンもすてきです。

芹口 ありがとうございます。おかげさまでお客様対応へのサービスも、高評価を頂いています。

大本 お店の壁面をギャラリーとして提供されていますが、何がきっかけですか？

芹口 この香椎参道のお店は、焙煎とカフェをすることになりました。それで、店内の壁面をどう活用しようかと考えたとき、店名の上に「いつも新鮮おいしさ感動」と謳っていますので、「いつも新鮮」というのは「珈琲が新鮮」なのは当たり前で、他のところも新鮮さを出しているかと思う、壁面に飾る絵は趣味として製作されている方々の発表の場にするのと良いのではと考えました。

しかも定期的に入れ替えるギャラリーとして提供することにしました。無料です。当初は2週間に1回入れ替えていました。それでも、予約が2年先まで詰まりました。

大本 発表する側にとっては嬉しいです。無料ですし（笑）製作者にとってもやり甲斐がありますし、モチベーションが上がります。

芹口 それで、折角展示されるなら、お知り合いや昔からのご友人にもご案内くださいとお願いしました。

ときめき Fukuoka

するとご高齢の方など、これをきっかけにわざわざ東京からおいでになったりしました。展示の作品で盛り上がり、お茶をしながら昔話に花が咲く。さながら同窓会です。その光景を見る私達も嬉しかったです。こんなことが何度もありました。

大本 すごく良いですね。再会の場になったんですね。アートが結びつける相乗効果ですね。東フレンドの絵画教室の受講者も二人ほどここで個展を開いています。

芹口 田中彰悟さんと、石堂悠乃さんですね。彰悟さんの作品で、新聞やテレビ、ラジオの取材が来ました。あの才能を見出したお父さんはすごいですね。筆使いが大胆で、おもしろいですね。

大本 自分の世界観で描きたいから描いていますね。誰かに見せようというてらいがないです。芸術を楽しむ、彰悟さんの作品にそれを感じます。

芹口 それに、結乃さんも。

大本 結乃さんのお母さんが、結乃さんとコミュニケーションを取りながら、絵を描いています。結乃さんの表情の微妙な移り変わりを、丁寧に受け取りながらお話しをしています。Nanの木での展示は、一年間の

集大成とのことで、このことを目標にしておられます。

芹口 毎年の絵を見てみると、心情の変化を感じます。ギャラリーがあつて良かったと思います。

大本 お二人だけではなく、フレンドホームの利用者の作品を、一般の皆さんに見てもらいたいというつもっています。でも「障がい者の作品」というと、見る人がひいき目で見えてしまいがちですから、そうではなく障がいの有無にかかわらず、作品を純粹に見て頂きたいと思っています。芸術として十分通じると思っています。

昨年12月、東フレンドもNanの木で作品展示をしました。実は利用者者の作品の中に、自身が描いたハガキ絵に詩を添える方がいらつしゃいます。その作品は心を動かされるものがありますので、お客様がおいしい珈琲で心にゆとりが生まれる瞬間にその作品を見てもらえると、より高揚感に浸れるのではと密かに期待していました。

芹口 私達は絵も描けない、歌も唄えない。展示の作品を見ると、みなさんすごいなと思います。こんな風に描けたら良いだろうなど。障がい者の感性の良さを感じます。

これからも、ぜひ使ってください。



有限会社 珈琲豆屋 [香椎参道Nanの木]

福岡市東区香椎1-3-31香椎参道 TEL 092-201-2201

福岡市立東障がい者フレンドホーム (身体障害者福祉センターB型)

福岡市東区松島3-15-2 TEL 092-621-8840

Nanの木での東フレンド作品展

田中彰悟さんについて 父、伸一さんに聞きました。

書道の作品に感動！

「つわぁー！すごいねっ！」特別支援学校小学部で持ち帰った書道の作品を見て思わず叫びました。その作品を見るだけで彰悟が書道を楽しんでいるのが伝わってきたんです。中学部になると書道の時間がなく、書を楽しませてあげたいと思ってしまうときに、市報で東フレンドの書道教室を知り、中学部二年から通い始めました。高等部三年からは絵画教室にも通っています。

彰悟さんの製作スペース

最初は大人しく描いていたのですが、次第に、トントントンと音を立てながら描いたり、シュッシュッシュと墨や絵の具のしぶきを飛び散らし、遊ぶような感じで楽しむようになります。ふつつなら注意されそうですが、彰悟が思う存分楽しめるようにと、職員さんが別室を準備してくださいました。お陰で、ビニールシートで覆われた部屋中使用して楽しんでいきます。

Nanの木での個展

東フレンドの職員さんから「個展をしてみたら」と勧められたのがきっかけです。まさか息子の個展なんて思っていたのですが、Nanの木さんを紹介され、作品を見ていただく



書籍紹介『お父さん、気づいたね! 声を失くしたダウン症の息子から教わったこと』(税込1,760円)
本号の特集記事でご協力頂いた、田中彰悟さんのお父さま、田中伸一さまが執筆された書籍です。

とご快諾。2021年6月に初個展をおこないました。予想以上に好評で新聞やテレビでも報道していただき、3年連続、誕生月の6月に展示しています。

彰悟さんへの思い

絵画や書道は、彰悟が楽しんでくれるのが目的なので、それだけで十分です。

田中彰悟さん(平成8年生まれ)

主な作品は、水彩、クレヨン、毛筆
ダウン症があり、生後2か月で肺炎、気管軟化症により気道が塞がり呼吸困難。一命は取りとめたものの気管切開をおこなう。以降、口や鼻で呼吸ができず、声を発せなくなつた。特別支援学校卒業後、ぴあすまいる東センターに通所。東障がい者フレンドホームの絵画教室、書道教室にも通っている。

石堂結乃さんについて 母、容子さんに聞きました。

持ちあじを生かしたい

まつ直く描けないことが結乃の持ちあじだと思えます。できないことが多いので、できることを最大限に引き出せるように、フォローしていきます。製作する時は、結乃のペースと一緒に進めています。ちょっとした仕草を受け取りながら。

Nanの木での個展

Nanの木での個展は、小学生の時からです。当時の先生から、「授業で制作した作品を展示しませんか?」と、一年の成果として春に展示をしたのが始まりです。作品展は一回で終わらず引き継がれ、最近では夏の時期にすることが定例となっています。作品は、正月を過ぎた頃から本格的に作り始め、親子で楽しみながら作ることを大切にしています。

つながりを大事にしたい

感想を書いて頂くためのノートには、たくさんの方達の想いが書き込まれています。Nanの木での作品展を通して、見て頂いた方とつながりが持てたことは嬉しいことだと思っています。当然知人からの感想が多くありますが、新たな人との出会い(直接会うことはできませんが)は感動しありません。このつながりは大事にしたいと思っています。

石堂結乃さん(平成7年生まれ)

主な作品は、水彩、アクリル、クレパス、書、工作
平成11年、4歳の時水中での溺水事故に逢い、無酸素脳症のため、身体の障がいを負うことになる。学卒後は、ぴあすまいる東センター、東障がい者フレンドホームを利用。東フレンドの絵画教室には、およそ10年前から通っている。



Nanの木での個展

【表紙にご協力いただいたみなさん】

- 前列右から
 - 田中伸一様
 - 田中彰悟様
 - 後列右から
 - (東障がい者フレンドホーム)
 - 大本知恵様
 - (有限会社 珈琲豆屋)
 - 芹口健一様
- ご協力ありがとうございました。